

令和4年度 第1回 教育研究所運営に関する懇話会 議事録

◆ 日 時 令和4年5月20日(金) 10:00~11:30

◆ 会 場 教育研究所 第1研修室

◆ 出席者

座長	井上 泉	(大楠小学校校長)
運営委員	星野 洋司	(大津中学校校長) 欠席
〃	伊藤 学	(横須賀総合高等学校校長) 欠席
〃	島貫 修二	(大津小学校校長)
〃	松山 雅彦	(北下浦中学校校長)
〃	川上 誠	(教育指導課長)
教育研究所職員	阿部 優子	(教育研究所長)
〃	矢本 歩	(教育情報担当課長)
〃	白井 宏一	(主査指導主事) 欠席
〃	田山 雅也	(主査指導主事: 研修・調査研究担当)
〃	濱田 広治	(係長: 管理運営係)
〃	伊東 誠司	(主査指導主事: ICT活用推進担当)
〃	三ツ堀 幸正	(主査: ICT環境整備担当)

他 主査指導主事1名
指導主事4名

◆ 傍聴者 なし

◆ 次 第 (司会: 教育研究所 主査指導主事 田山、記録: 会計年度職員 棚橋)

1. 開会
2. 所長・担当課長挨拶
3. 懇話会構成員、係長、主査、指導主事紹介
4. 座長、副座長選出
5. 議事進行上の確認事項
・教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
6. 議事: 令和4年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑
 - (1) 令和4年度教育研究所の基本方針、重点、予算概要・・・(阿部・矢本)
 - (2) 研修・調査研究担当事業について・・・(田山)
 - (3) 管理運営係事業について・・・(濱田)
 - (4) ICT活用推進担当事業について・・・(伊東)
 - (5) ICT環境整備担当事業について・・・(三ツ堀)

7. 連 絡

- (1) 議事録の確認依頼
- (2) 交通費（講座振替依頼書）、次回日程他

8. 閉 会

[資 料]

1. 令和4年度 教育研究所「要覧」
2. 令和4年度 予算概要
3. 令和3年度 成果と課題

◆ 議事録

1. 開会（進行：主査指導主事 田山）
2. 教育研究所長・教育情報担当課長挨拶
3. 議事進行上の確認事項（進行：井上座長）
教育研究所運営に関する懇話会の傍聴要領
傍聴者なし
4. 議事：令和4年度教育研究所諸事業等についての説明及び質疑

- | | |
|-------------------------------|-------|
| (1) 令和4年度教育研究所の基本方針・重点・予算概要説明 | 阿部・矢本 |
| (2) 研修・調査研究担当事業について説明 | 田山 |
| (3) 管理運営係事業について説明 | 濱田 |
| (4) ICT活用推進担当事業について | 伊東 |
| (5) ICT環境整備担当事業について | 三ツ堀 |
| (6) 質問・意見等 | |

田山主査：教育研究所からの説明は以上です。座長に1点お願いがございます。この後最初にお話しをさせていただいたように、教育指導課川上課長が公務のため退席されます。ですので先に川上課長にご意見をいただけるよう進めていただけたらと存じます。座長、どうぞよろしくお願いいたします。

井上議長：はい。承りました。川上課長よろしくお願いいたします。

川上課長：本日途中退席をさせていただきます。この後細かい話が出てくると思いますが、本課としてはこれまでキーワードとして連携ということが出てきました。特に教員の指導力向上に係る研修、一人一台端末の部分については本課の方の最大ミッションでもある学力向上にも繋がっておりますので、今後も密接な連携を図ってまいりたいと思っております。

井上議長：川上課長ありがとうございました。それでは質疑応答に入りたいと思います。質問のある方はご発言をそれぞれお願いいたします。ご質問いかがでしょうか。ご意見も併せてとりたいと思います。ご質問ご意見併せてご発言ございましたらよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。ありがとうございます。では今ご説明いただいた部分については、ご理解いただいたということで進めてまいりたいと思います。それでは本日懇話会の構成員の皆さんから今後の研究所事業について一言ずつご意見等をいただきたいと思います。先ほど川上課長のほうにお話しいただきましたので、小学校教育研究会長大津小学校校長島貫先生、よろしくお願いいたします。

島貫校長：教育研究所にはお願いばかりしていて、不具合がある度にとか、教員の研修で学校に来ていただいたりとか、いろんな部分でお世話になっております。特に意見をもっていないのですが、こういう話、自分達がした研修の話では、目的である人材育成であったり、校務の円滑化であったりというところについては、同じ目線を自分も持っているので、自分は自分の学校の立場、学校長の立場で推進していく。研究所のほうは研究所のそれぞれの課の目的に沿って進めていくことで、学校と行政とが何かの形でかみ合っていくと思っております。今後ともいろいろなお願いをするようになると思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

井上議長：研究会長北下浦中学校松山校長先生よろしくお願いいたします。

松山校長：皆さんおはようございます。今日はちょっと藤沢の市民会館で県の技術・家庭科の研究会総会がある関係でこちらからの配信をしております。電波が不安定でとても不安なのですが、そんな事情ですので途切れ途切れになってしまいご迷惑をおかけしてしまうかもしれません。私からは3点ほどお話をさせていただきます。1点目は前段にありました研究所からの事業報告関係のご説明ですが、大変いろんなところに工夫をされておりまして、カバーされている

ところがとても多いなと感じております。私もこれまでのキャリアの経験上、研修を作ってきた側で6年間の経験がありますが、そんな目を通してとてもカバーされているなと思っております。特に今の時代の若手の先生方というのは学校でどの様に子ども達と接していくかということ、そういったところに関するコミュニケーションが上手くとれない先生が大分増えてきているというところがありますので、学校訪問等で実際に初任者や中堅等含めてなのですが、子ども達と触れ合っている姿を指導主事の皆さんに見ていただいて、その中で気がつくことをいろいろご指摘していただくというフィールドで行われる半分 OJT のような形で研修をしていただく機会をなるべくとっていただけると現場としてもとても嬉しいなと思っております。2点目は私の教科のことも含めてなのですが、だいたい技術・家庭科の教員は免外(許可免許の)教員が多い状況です。私は小学校の経験もあるのですが、小学校の先生方にとってみれば全教科をカバーするというのはとても大変なことだと思うんですね。そういった目とほぼ同じような考え方で、経験や資質について審査をしたうえで付与されている臨時免許をもとに授業を担当している教員ではありますが、よりよい教科指導を行ううえで研修等のサポートを検討いただければと思っております。3点目です。3点目は後段にありました情報活用に関することですが、中学校、いわゆる一人一台端末が配備され2年目に入ったわけですが、やはりここに来ていろいろな意味で不適切な使用などトラブル等が発生してきているという事案をよく聞きます。情報モラルの指導というのをどの様に進めるかというところが、もう中学校だけの問題では無くなってきているなと思っています。今後一人一台端末が小学校で定着していくにしたがって小学校での情報モラル教育、中学校での情報モラル教育が9年間を通じた形で行われるように整備をしていかなければいけないなと思いますので、その為にも小・中が上手く連携してやっていく為の一つのガイドラインがどこかから示されるといいのではないかと思いますので、こちらのほうもご検討をよろしく願いいたします。私からは以上です。よろしく願いいたします。

井上議長：松山校長先生、ありがとうございました。それでは以上をもちまして議事を終了いたします。皆様ご協力ありがとうございました。